



【校報】

神部っ子だより

【校訓】 元気よく 仲よく 力いっぱい

たつの市立神部小学校

〒671-1632

たつの市揖保川町黍田 434

TEL 0791-72-3020

FAX 0791-72-3021

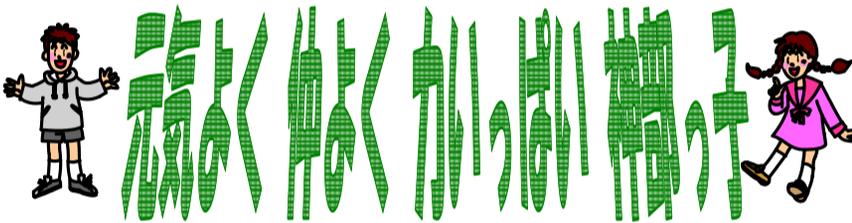
URL <https://kanbesyo.tatsuno.ed.jp>

発行人 校長 岸本 裕希



レジリエンスを身につけよう

神部小学校に元気な子どもたちの声が帰ってきました。やはり、子どもたちがいてこそ小学校です。さて、2学期のはじまりに際しまして、子どもたちに「レジリエンス」についてお話をしました。今回は、それについて紹介してみたいと思います。人が生きていく中で、様々な困難に直面することがあります。時には心が折れそうになったり、くじけそうになります。しかし、中にはその困難をバネにして乗り越えていく人がいます。このように、心が折れそうになっても立ち直る力を「レジリエンス」といいます。この「レジリエンス」は、今の時代や現代の状況に必要な、とても大切な力の一つです。未来に生きる、そして、未来を支える子どもたちにぜひ身につけてもらいたいと思っています。この「レジリエンス」の力を高めていくことに必要なことは、「自分ができる!」という気持ちを強くもつことだそうです。その反対に「レジリエンス」の力を弱める言葉は「どうせ」だそうです。例えば、「“どうせ”自分にはできない」とか「“どうせ”努力しても自分には無理だ」といった「どうせ」です。毎日の生活の中で、たとえ辛いことや悲しいことがあっても「どうせ」という言葉を使わず「自分ができる!」と思って、諦めずに頑張る踏みとどまっていきたいと思っています。努力していく中で、それでも心が折れそうになったら、周りにいてくれる家の人や友だち、さらには地域の方々や先生たちなど相談できる人に話してほしいのです。そして、お互いの意見や考えを伝え合い、支え合いながら解決方法を見出してほしいと思います。子どもたち一人ひとりが、この繰り返しをすることによって「レジリエンス」を身につけ、未来を切り拓いていってくださることを期待しています。



《7月19日(金)「1学期終業式」》

1学期の終業式を校長室からのリモートで行いました。右の写真は、児童代表で作文を朗読しているところです。1学期に頑張ったことと夏休みに取り組もうとしていることを力強く発表していました。



《表彰》 ~みなさん、おめでとうございます~

★スポーツ少年団ソフトボール交歓大会 Jrリーグ

準優勝:神部SC 優秀選手賞:菅原脩介(5-2)

★スポーツ少年団ソフトボール交歓大会 A

優勝:神部SC 最優秀選手賞:小池竜矢(6-2)

★ライオンズクラブ杯

優勝:神部SC 最優秀選手賞:増井唯人(6-1)

★令和6年度「人権文化をすすめる市民運動」作品展

標語の部優秀賞:「多様性 学んでつろう ALLY(アライ)の輪」
山本 新(5-2)

標語の部入選:「おはようと えがおで言えたよ きょうもはなまる」
伊窪花星(1-1)

標語の部入選:「『ありがとう』 えがおになれる まほうの言葉」
田中海彩(3-1)

ポスターの部入選:「みんな なかよし」
圓尾もも葉(1-1)



ポスターの部入選:「えがお いっぱい」
吉田奈未(3-1)



ポスターの部入選:「みんなで 毎日を 楽しくしよう」
菅原ほの花(5-1)



人権作文の部教育委員会賞:「こころのともだち」青木優磨(2-1)

ぼくは、二年生がはじまってすぐの四月に、体そうのならいごとで左うでをこっせつしてしまいました。ギプスでかちこちにこていしているとき、かた手だけで生かつてできるのかなと思いました。さらに、ぼくはき手が左なので、えんぴつも、おはしももつことができないよと考えたとき、ふあんとかない気持ちでいっぱいになりました。

家では、おかあさんがふくをきるのを手つだってくれたり、ごはんを食べさせてくれたりしました。おかあさんに、「手つだってくれてありがとう。」と言いました。おかあさんは、「いいよ。」とわらってこたえてくれました。学校にいくと、ぼくのギプスを見たともだちが、「ゆうまくん、大じょうぶ。」としんぱいしてくれました。「きゅう食はこんでおくね。」「ランドセルやくつをしまおうか。」「このもちものに名前を書いておくね。」と、いろいろなばめんで声をかけてくれたり、手だすけしてくれたりしました。ぼくは、てれくさい気持ちやもうしわけない気持ちもあるけど、こまっているぼくをたすけてくれてうれしいな、みんなと同じクラスでよかったなと思いました。こころがあたたかくなりました。ぼくもけががなおったら、そんなみんなにできることをしたいと考えました。家でも、学校でも、そうやってたすけてくれる人たちに、「いつもありがとう。」とかんしゃの気持ちをつたえるようにしました。けがをしたときは、とてもいたかったし、きき手がつかえないことは、とてもふべんでくろうもしたけど、まわりのこころのあたたかさに気づくことができよかったです。

そんなところでクラスを見ると、けがをしている人がいなくても、

いろいろな人がおたがいにたすけ合っていることに気がつきました。だれかがふてばこをおとすと、となりの友だちがいっしょにひろったり、プリントのもんだいのなおしをやさしくおしえあったり、教しつはとてもあたたかいところでした。ぼくも、できることがあったらじぶんから声をかけたいです。

人権作文の部入選:「本当のやさしさ」白潟華(4-2)

本当のやさしさって何だろうと考える時がありました。今までのことをふり返ると、運動会のできごとを思い出しました。私は、運動会のダンスの練習中にい動の場所がわからなくなりました。その時、近くにいた友達が「なんでここにいるの。」とやさしく言ってくれました。私は、「場所がわからなくなって。」と言うと、「そうなの、なら時間もないからこの間に入っておきな。」と言ってくれました。安心して、その後もダンスをおどり続けることができました。「ダメだよ、まちがえているよ。」というのではなく、「ここにいていいよ。」と言ってくれているみたいで、とてもうれしかったです。また、リレーでこけてしまいけがをした時に、保健室の先生を探してこまっていたら、「いっしょに行くよ。」と友達がさりげなくそばにいてくれました。友達はよく見ているな、自分も相手のためになることに気がつきたいなと思いました。

困っている人がいたら迷わず手をさしのべる。何かしてもらえからするのではなく、その人の気持ちによりそえる人になりたいです。例えば、電車で席をゆずろうとしている人、立っている人を心配している人がいるとします。でも、もしゆずろうとしている人が立ちたいと思っていたらどうでしょう。よかれと思ってしていることでも、それは自分のやさしさをおしつけているかもしれません。ときには、そっと見守ることもやさしさなのかなと思いました。また、やさしさを受け取る時には、ありがたいの気持ちを大切にしたいです。何かしてくれたことを当たり前と思うのではなく、ささいなやさしさにも気をつけることも大切です。

いろいろな人の立場になって考え、思いやりの気持ちをもって関われる人が本当のやさしさをもっているのだと思います。

人権作文の部入選:「多様性の時代を生きるために」

途田結斗(6-1)

ぼくのひいおじいちゃんやひいおばあちゃんが若かった時代は、「男は仕事、女は家庭」という言葉がよく使われていました。これは、男性は仕事だけに専念し、女性は社会に出ずに家事や子育てをすることが当たり前だと思われていたからです。ぼくは、「男だから」とか「女だから」というように性別で物事を判断したり区別しようとするのがあまり好きではありません。なぜなら、その言葉で人に「生きづらさ」を与えてしまうからです。昔は、そのがい念ががち、男性は仕事ばかりでストレスを感じたり、女性は働きたくても女性の社会進出がそこまで進んでいなかったため、働けなかったりと、男女ともに生きづらさを感じていたのではないかと思います。現代では、ぼくのお母さんも働いているし、お父さんも家事やぼくのためにいろいろお母さんと協力してぼくを育ててくれています。このような社会になってきている理由に「多様性」という言葉がよく挙げられています。「多様性」とは、ある集団の中に異なる特徴や特性を持つ人が存在するということです。最近、制服のがい念も変わってきていることをニュースで見ました。今までは、「男子はズボン、女子はセーラー服やスカート」と決まっていた。しかし、女子もジャケットやズボンを選択できるようになってきています。他には、ランドセルの色も男女関係なくいろんな種類が選択できるようになっています。これも、社会が多様性を認めようとしているしよこの一つだとぼくは思います。

また、世界的には、黒人だからという理由で、人種差別を受けたり、他国から追い出されてしまったり、命をねらわれている人がたくさんいます。五年生の時に「ヘイトスピーチ」について学習しました。ヘイトスピーチとは、ある人が実際に持つ、宗教や人種、肌の色といった多岐にわたる特徴を非難することです。ぼくはこの学習を通して、なぜ人種差別やヘイトスピーチを受ける人がいるのかということや逆になぜ人種差別やヘイトスピーチをする人がいるのかと

いう疑問をいただきました。考えてみると、原因はそれぞれ国の文化にあるのではないかと思います。例えば、ぼくは日本で生まれたので日本の文化にとっても慣れていて、他の国の文化を知ると、びっくりすることがあるかもしれません。そこで、自国の文化と少しちがうからといって、他の国の文化を馬鹿にしたりしてしまうことによって、人種差別やヘイトスピーチという言葉が生まれてしまったのだと思います。人種差別やヘイトスピーチをしている人は、自分の考えが正しいと思っています。やはり、そのようなことでは人種差別やヘイトスピーチがなくなることは絶対にありません。そのようなことをしている人は、自分の考えを根本から変える必要があります。人種差別やヘイトスピーチなどは許される行為ではないことを前提に、他の国の文化や宗教を認め合い、それぞれの良さを見つけ、そして協力し合って、より良い国にしようという考えをもたないといけません、これも、「多様性を認め合う」ということに関係していると思います。

世界中のみんなと、多様性を認め合えば、きっと差別もなくなっていこうし、この先の未来にもつながると思います。誰もが自分らしく生きられる、そんな「多様性の時代」に、もっともってなっていくことをぼくは願っています。

9月行事予定

2日	(月)	2学期始業式
4日	(水)	給食開始
5日	(木)	4年 EM 団子投入、委員会活動、ALT
6日	(金)	ALT、SC、5年13:30下校、定時退勤日
9日	(月)	5年自然学校(～9/13)
11日	(水)	13時30分一斉下校(*5年生以外)
12日	(木)	ALT
13日	(金)	ALT、SSW、定時退勤日
16日	(月)	敬老の日
17日	(火)	代表委員会
18日	(水)	地区終会
19日	(木)	クラブ活動、ALT
20日	(金)	移動図書、ALT、SC、就学時視力・聴力検査 定時退勤日
23日	(月)	秋分の日
24日	(火)	5年小小交流、ALT
26日	(木)	委員会活動、ALT、SSW、避難訓練
27日	(金)	定時退勤日

★毎月25日は、笑顔の日「ノーゲーム・ノースマホデー」

*10月以降の主な学校行事について

- ・10月3日(木) 1年校外学習
- ・10月10日(木)～11日(金) 6年修学旅行
- ・10月22日(火) こども音楽会
- ・10月25日(金) 音楽学習発表会(オープンスクール第1日)
- ・10月31日(木) 2年校外学習
- ・11月11日(月)～22日(金) 1～3年かけ足ウィーク
- ・11月14日(木) 3年校外学習
- ・11月15日(金) オープンスクール第2日
- ・11月22日(金) 4年校外学習
- ・11月25日(月)～12月6日(金) 4～6年かけ足ウィーク
- ・12月24日(火) 2学期終業式

*8月24日は、早朝よりPTA 奉仕作業にご参加いただき、ありがとうございました。蒸し暑い中ではありましたが、隅々まで美しくいただき、気持ちよく2学期を迎えることができました。

